特別寄稿

各国における気管食道科学の現況

33巻1号でご紹介したように、各国の代表的な気管食道科学者に、それぞれの国での気管食道科学の現況について問合わせを送っております。今回もいくつかの国から返事が届きましたので、これをご紹介します。

なお、主な質問事項は次のようなものです。

- 貴国には気管食道科学会がごいますか。またその歴史は如何でしょう。
- 気管食道科学は専門科目として認められていますか。
- 気管食道科専門医の養成と、資格認定について。
- 気管食道科学の将来の展望について。
- 硬性鏡と軟性鏡の長短について。

(編集委員会)

■ オーストラリア

B.N.P. Benjamin, F.R.A.C.S.

1931年生。Sydney University 出身。同大学にてトレーニングをうく。現在 ENT Surgeon (Sydney Hospital, Royal Alexandra Hospital for Children ほか)。

オーストラリアには気管食道科学会はなく、また気管食道科学は独立の専門科目として認められてはおりません。トレーニングは耳鼻咽喉科、胸部外科などで各個に行なわれています。将来、学会を作ろうという特別な動きはなく、残念ながら関係各科の間の連絡も、良好とはいえません。なお現在ごく少数の耳鼻咽喉科医が軟性鏡を用いているのみで、他は、硬性鏡が主体です。

■ メキシコ

R.T. Acuña, M.D.

1909年生。National University of Mexico 卒。General Hospital Mexico City にてトレーニングをうく。現在 National University of Mexico 外科学、耳鼻咽喉科学教授。

メキシコには独立した気管食道科学会はありませんが、1946年以来、メキシコの耳鼻咽喉科学会は、正式には“メキシコ耳鼻咽喉科—気管食道科学会”とよばれており、その会員が気管食道科診療にたずさわっています。ただし後に胃腸科や胸部疾患科も経口的内視鏡を施行するようになっています。

12年前から耳鼻咽喉科学の専門医資格試験が行なわれており、その中に経口的内視鏡に関する課題も含まれています。また国立メキシコ大

学には3年間の耳鼻咽喉科のコースが開かれており、この中に気管食道科学が含まれています。

硬性鏡と軟性鏡は、症例によって使い分けるべきと思われますが、耳鼻咽喉科では一般に硬性鏡が用いられています。

■ オランダ

E.H. Huizing, M.D.

1932年生。State University of Groningen 出身。State University of Leiden にてトレーニングをうく。現在 State University of Utrecht 耳鼻咽喉科学教授。

オランダには独立した気管食道科学会はありません。わが国では、気管支科学と気管支鏡検査は殆どが胸部疾患専門医 (pulmonologists) の守備範囲にあります。小さい病院で pulmonologist がいない場合は、耳鼻咽喉科医が気管支鏡を致します。病院によっては pulmonologist と耳鼻咽喉科医の間に緊密な連絡があります。大学病院では、喉頭、気管に問題があればわれ

われ耳鼻咽喉科医が気管支鏡検査を行ない、肺疾患の場合は pulmonologist が施行します。

異物摘出は、大体において硬性鏡を用いて耳鼻咽喉科医が行ないますが、診断的気管支鏡検査には殆どの場合、軟性鏡を用います。

食道鏡は耳鼻咽喉科医と胃腸科医の両方が担当しますが、胃腸科医はふつう軟性鏡を用います。耳鼻咽喉科医は、疾患によって硬性鏡、軟性鏡を使い分けています。Postcricoid carcinoma や異物、腐蝕剤嚥下による食道炎などは耳鼻咽喉科で診断、治療を担当し、他の疾患は胃腸科に任せられます。

軟性気管支鏡の習練は、pulmonologist の教育上重要な課題です。軟性食道鏡の習練は、胃腸科医にとって重要ですし、一方耳鼻咽喉科医にとっては、硬性鏡および軟性鏡による食道鏡検査と硬性鏡による気管支鏡検査が必須の習練項目としてあげられるでしょう。

■ 西ドイツ

R. Link, M.D.

西ドイツには気管食道科学会はありません。